

平成29年度 自己点検・評価書

平成30年3月

佐賀大学
保健管理センター

I 日常業務である保健管理センター活動について

平成29年度における保健管理センターの日常業務に関して、その活動報告および自己評価を行う。

I. 平成29年度学生の健康管理実施状況

1. 学生健康診断他活動状況

本庄地区では、健康診断として、新入生健康診断、在學生健康診断、留学生健康診断、スポーツ健康診断、R I 健康診断、感染対策として、小児感染症抗体検査、メンタルヘルスとして、通常カウンセリングおよびスクリーニング、その他として、禁煙サポート、肥満学生支援、健康診断証明書発行などの業務があります。

鍋島地区では、健康診断として、在學生健康診断、大学院生健康診断、R I 健康診断、感染対策として、小児感染症対策（新入生）、B型肝炎ワクチン接種、インフルエンザワクチン接種、メンタルサポートとして、カウンセラー面談、その他として健康診断証明書発行などの業務があります。

<本庄キャンパス>

1. 定期健康診断

新入生 1,165 名全員が定期健康診断を受診した。在學生の2年生は 1,173 名中 785 名 (66.9%)、3年生は 1,226 名中 964 名 (78.6%)、4年生は 1,508 名中 1,169 名 (77.5%)、大学院生は 561 名中 443 名 (79.0%)、総計 5,633 名中 4,526 名 (80.3%) であった。

本年度の受診率は平成28年度の82.1%より1.8%低下し、80.3%であった。これは、健康診断の実施時期を診断書発行の時期を出来るだけ早くするために、3月下旬から開始する日程に変更し、その周知が十分でなかったことにより、受診率が低下したと考えられた。受診しやすい日程を再検討する必要があると考えられる。

2-1, 2-2, 2-3 健康診断結果（各検査所見）

現症または所見のある者の中で、頻度の高い疾患および状態像は、やせ（BMI 18未満）が413名、肥満（BMI 30以上）が121名、アレルギー疾患が112名、呼吸器疾患77名、循環器疾患64名の順でであった。胸部X線要精密者が13名であった。心電図検査は、378名に行い、有所見者は110名（29.1%）であった。その結果では、WPW症候群が14名、完全右脚ブロックが14名、Brugada型が14名、心室性期外収縮が10名などであった。心電図異常所見者は、継続的に経過観察している。心電図の経過観察者は、本庄地区では109名であった。

2-4 留学生特別健康診断

留学生健診は、春と秋（秋入学者対象）に実施している。血液検査では、脂質異常症の学生が多く（57名）、次に肝機能障害（14名）であった。血液検査結果は、個別指導を行い、春健診で異常がみられた学生は、秋にもフォローアップしている。

前期及び後期で血液検査に認められる異常所見は、脂質異常症、B型肝炎ウイルス陽性、肝機能障害、高尿酸血症、貧血などであった。今年度は7名に精密検査や治療が必要として病院紹介を行った。

3. メンタルヘルス対策

心理面のスクリーニングを行うために、本年度は新入生、卒業予定学生（学部学生）および大学院生へ「一般健康調査票（CMHQ: College Mental Health Questionnaire）」を配布した。それぞれの結果のまとめを以下に提示する。

新入生：回収率は、新入生100%であり、昨年同様に高かった。CMHQのスコアが21点以上（ストレス過剰の可能性）の学生は134名（11.5%）であった。それらの学生の中で、115名（85.8%）に構造化面接 Mini-International Neuropsychiatric Interview (MINI)を施行した。頻度の高い診断としては、神経症22名、発達障害圏内の可能性10名、睡眠障害4名、などが認められた。

卒業予定学生（学部学生）：回収率は、1,508名中1,168名（77.5%）であった。CMHQのスコアが21点以上（ストレス過剰の可能性）の学生は178名（15.2%）であった。それらの学生の中で、145名（81.5%）に構造化面接 Mini-International Neuropsychiatric Interview (MINI)を施行した。頻度の高い診断としては、神経症24名、気分障害16名、発達障害圏内の可能性12名、睡眠障害8名、などが認められた。

大学院生：回収率は、565名中441名（78.1%）であった。CMHQのスコアが21点以上（ストレス過剰の可能性）の学生は54名（12.2%）であった。それらの学生の中で、42名（77.8%）に構造化面接 Mini-International Neuropsychiatric Interview (MINI)を施行した（昨年は100%）。頻度の高い診断としては、神経症7名、気分障害4名、発達障害圏内の可能性2名、睡眠障害2名などが認められた。

全般的にみると、ストレスの度合は、卒業予定者（学部学生）15.2%＞大学院生12.2%＞新入生11.5%の順に高かった。

発達障害圏内の可能性の学生について：男女ともに、増加傾向にあり学生支援室集中支援部門の専門教員と連携し、サポートを行っている。

4 感染症対策

本庄地区では、麻疹抗体検査を行っている。対象者数は284名で、受診者は274であった。ワクチン接種対象者は28名であった。この結果は昨年と同様であった。

5 健康診断証明書発行状況

自動発行機による部数 2709 通であった。保健管理センターにおける発行件数は、1481 通であった。発行の最も多い月は、例年どおり 2 月から 3 月であった。

6 保健管理センター利用状況（本庄地区）

保健管理センターの利用件数は 8,223 件（学生 6,181 件・職員 2,042 件）であった。心電図検査、尿検査、血圧測定、身体計測数が昨年度より減少しているのは、健康診断を外注化したことによる影響である。

<鍋島キャンパス>

【学生現状分析】

1. 定期健康診断

医学部新入生 166 名は例年同様、全員健康診断を受けた。在学生は 727 名中 705 名（97.0%）、大学院生 216 名中 47 名（21.8%）が受診した。大学院生は、社会人大学院生も多く、学内での受診が低い傾向が続いている。一般入学の大学院生で未受診の学生には受診勧奨を行っている。

2 新入生健康診断

新入生における現症または所見のある者の中で、頻度の高い疾患および状態像は、BMI 18 未満のやせが 14 名、医学部は血液検査を実施しているため肝機能異常を含む代謝・内分泌の血液検査異常が 9 名、気管支喘息などの呼吸器疾患が 9 名であった。新入生の 1 名が食物によるアナフィラキシーショックの既往があり、入学前に附属病院受診し、対応ができるように関係者の情報共有を行った。

3. ワクチン接種状況

H28 年度より入学時に小児感染症 4 項目の血液検査結果を提出することとした。その結果でムンプス・麻疹・風疹・水痘などの佐賀大学医学部の基準に満たない学生に対し、入学後にワクチン接種を実施した。小児感染症については、延べ 168 名がワクチン接種対象となった。B 型肝炎ワクチンは、医学科 4 年 17 名、医学科 1 年 103 人、看護学科 60 人、計 180 名が接種を受け、158 名が陽転した。陽転しなかった学生については、12 月・1 月に追加接種を行い、2 月中旬までに確認検査を行う。

医学科 4 年生については、入学時に B 型肝炎ワクチン接種を行っているため、臨床実習前の確認検査を実施した。60 名が HBs 抗体陽性から陰性に変化していた。この対応としては、今年度は対応する時間がないため、6 年次に追加接種をすることとした。インフルエン

ザワクチン接種は、11月～12月に実習学生医学科5年・看護学科3年、および国家試験を受ける学年医学科6年・看護学科4年、勸奨学年医学科2年、4年生を中心とし、518名に接種した。

4. 学生健康相談（メンタルヘルス支援）

新入生については、これまで同様に入学時健康診断のスクリーニング調査結果で、ポイントの高い学生24名に連絡し、19名に面談を実施した。H23年度から、医学科2年、看護学科3年を対象に全員スクリーニング面接を実施している。また、今年度から、医学科4年は留年生のみ面談を行い、他は希望者に面談を行い4名が面談を行った。

過年度学生のメンタルヘルス対応が難しい学生が多く、医学部精神神経科学学校医の協力を得て、対応している。留年を繰り返す学生には、精神面・学業面での支援は不可欠で、精神科医、副センター長、カウンセラーと学生課、チューター、および保護者との連携を行った。

5. 健康診断証明書発行状況

医学部の場合は、免疫の記録（小児感染症・B型肝炎ワクチン接種）と国家試験免許申請に関する診断書発行が1～3月に多く、保健管理センターでの診断書発行は489件であった。

6. 保健管理センター利用状況

H29年度の保健管理センターの利用件数は7,126件（学生3,144件・職員3,982件）であった。今年度は、学生のB型肝炎ワクチン接種が新入生ワクチン接種の移行期がほぼ終了したため、学生のワクチン接種関係の利用者は減少した。

Ⅱ. 平成29年度教職員の健康管理実施状況

<本庄事業場>

1. 平成29年度安全衛生活動状況（本庄地区）

本庄地区では、労働安全衛生管理活動状況として、職場環境の整備（作業環境管理・職場の巡視・5S活動・快適職場づくり）、マニュアル等の整備（安全衛生管理マニュアルの作成・MSDSの整備）、健康保持増進対策（健康診断・有所見者に対する事後措置・メンタルヘルス対策・受動喫煙防止対策）、安全衛生教育（安全衛生教育・能力向上教育・衛生管理者等資格者の確保）の活動を行っている。

2. 定期健康診断：

雇入時健康診断、一般定期健康診断、特定業務従事者健康診断、他機関受診者を合わせると、981名が健診を受けており、受診率は100%となった。異常所見を有する方には、個別に連

絡や面談を行い、保健指導や医療機関受診の勧奨を行っている。

3. メンタルヘルス対策

(1) 健康相談調査（メンタルスクリーニング）

本庄地区では、全教職員を対象に中央労働災害防止協会のヘルスアドバイスサービスを活用した「ストレスチェック検査」でのスクリーニングを行った。対象者 933 名中 848 名からの回答を得て（回答率 90.9%）、高ストレス者は 61 名（7.2%）、要配慮者は 160 名（18.9%）であった。

(2) カウンセリング状況（本庄地区）

カウンセリング体制は、産業医 2 名、産業カウンセラー（非常勤）1 名、看護職 2 名である。新規相談の実数は 93 名、延べ面談数は、264 名であった。相談の内訳は、精神衛生が 62 名、人間関係が 6 名、仕事が 4 名などであった。

4. 復職支援実施状況（本庄地区）

佐賀大学では、病気（メンタルヘルスの不調者を含む）やけがなどが原因で心身の健康を害し、休職している教職員（休職しようとする方を含む）に、段階（0～4 段階）ごとに産業医等の支援の下に実施している。第 0 段階（発症時の支援）、第 1 段階（療養開始・療養中の支援）、第 2 段階（復職復帰準備期の支援）、第 3 段階（職場復帰時の支援）、第 4 段階（職場復帰後の支援）である。

本年度の復職支援対象者は、フィジカルは 2 名、メンタルは 6 名であり、延べ面接回数は 34 回だった。復職判定会議は 3 回施行され、その結果、3 名中 3 名（メンタル）が復職支援プログラム後に復職した。

5. 労働災害報告（本庄地区）

平成 29 年の労働災害報告は、本庄地区は 10 件であった。

6. 長時間労働に対する産業医面談（本庄地区）

月の超過勤務時間が、100 時間を超えた 5 名に対し産業医面談を行った。

<鍋島事業場>

1. 健康診断

職員健診は、附属病院ということもあり、定期健康診断の 100%受診を労基署より指導をされ、他機関受診を含め、職員全員が受診した。

2. 感染症対策

職員の感染症対策については、総務課・附属病院感染制御部と協力し企画・実施した。

ムンプス・麻疹・風疹・水痘などの小児感染症については、雇用時に全員対象に行い、抗体が不足している職員のべ 148 名に追加接種を行った。

B 型肝炎対策は、359 名に検査実施し、抗体陰性者 105 名にワクチン接種を行った。

インフルエンザワクチン接種は、全職員を対象に実施した。委託職員なども含め 1783 名に接種を行った。

3. メンタルヘルス対策

鍋島職員には、採用時・異動時のスクリーニングに加え、健康診断時に中災防ウエルネスチェックを行った。職員のメンタルヘルス対策として平成 27 年度 12 月からストレスチェック制度が法律で義務となったが、医学部ではこれまでの体制で継続実施し、1723 人が回答、52 人に面談を行った。内 4 名がカウンセリング継続となった。

H29 年度も、新人看護師 62 名の面談を産業カウンセラー 2 名体制（1 名は H29 年度から週 5 時間）で実施。1 回目を 6 月に、2 回目を 1 月から 2 月に実施した。新人看護師の年度途中の退職は 0 名であった。今年度は、緊急支援を要するケースはなかったものの、以前の問題が続いて調子を崩す職員が数名認められた。そのため、職員本人だけでなく上司から相談、カウンセリングから精神神経科受診につながるケースを数件認めた。今後もより迅速な緊急支援を実施する体制作りを行っている。

4. 復職支援実施状況（鍋島地区）

佐賀大学では、病気（メンタルヘルスの不調者を含む）やけがなどが原因で心身の健康を害し、休職している教職員（休職しようとする方を含む）に、段階（0～4 段階）ごとに産業医等の支援の下に実施している。第 0 段階（発症時の支援）、第 1 段階（療養開始・療養中の支援）、第 2 段階（復職復帰準備期の支援）、第 3 段階（職場復帰時の支援）、第 4 段階（職場復帰後の支援）である。

本年度の復職支援対象者は、フィジカルは 2 名、メンタルは 6 名であり、延べ面接回数は 35 回だった。復職判定会議は 3 回施行され、その結果、3 名中 3 名（メンタル）が復職支援プログラム後に復職した。

5. 労働災害報告（鍋島地区）

平成 29 年は、24 件であった。

6. 長時間労働に対する産業医面談（鍋島地区）

超過勤務時間が、100 時間を超える場合、もしくは 45 時間を超える勤務が、3 か月以上続

く場合を対象に面談を行った。22 名に対し産業医面談を行った。

Ⅱ 教育に関する状況と自己評価

保健管理センターの教員 3 名はそれぞれ講義および大学院生をもち、教育においても大学において貢献している。その具体的な内容を以下に示す。

<本庄キャンパス>

本庄キャンパスについては下記のとおりである

1. 講義

学内（佐藤）：

健康科学 A・前期

理工学部（機能物質化学）フレッシュマンセミナー

医学部・精神医学（コンサルテーション・リエゾン精神医学）

農学部 「メンタルヘルス」

医学部医科学専攻・修士課程・精神心理学特論（physical health, mental health）

学外（佐藤）：

放送大学（専門科目：心理と教育 | こころアレルギー）

日本赤十字九州国際看護大学（統合失調症と妄想性障害、気分感情障害、人格障害・薬物依存・てんかん、脳機能と薬物療法）

学内（木道）：

健康科学 A・後期

トレーニング理論・実習（池上寿伸・木道圭子）：1 年生 前期

2. 大学生・大学院生等指導

学院医学系研究科博士課程医科学専攻 4 年生 中村志織

大学院医学系研究科博士課程医科学専攻 1 年生 竹岸智子

大学院医学系研究科修士課程医科学専攻 2 年生 横山光代

<鍋島キャンパス>

1. 講義

学内（尾崎）

実習の安全管理：感染予防を中心に．医学科 4 年 臨床入門．2017. 1. 23.

漢方入門：東洋医学の基礎知識．医学科 4 年 臨床入門 Unit10 2017. 8. 29.

尾崎岩太．漢方入門：内科領域における漢方．医学科 4 年 臨床入門 Unit10 2017. 9. 1.

尾崎岩太．生活習慣と健康．インターフェイス科目：食と健康 III 運動と栄養．
2017. 10. 4

2. 大学院生等受け入れ指導

佐賀大学医学部博士研究員 夏 京合

佐賀大学医学部社会人大学院医学系研究科博士課程医科学専攻 6 年 桑代卓也

佐賀大学医学部大学院医学系研究科博士課程医科学専攻 2 年（文部科学省国費留学生）
Mr. Mohamad Manirujjaman

佐賀大学医学部研究留学生（H30. 4. 1 より医学部大学院医学系研究科進学予定，文部科学省国費留学生）Ms. Rasheda Perveen

Ⅲ 研究に関する状況と自己評価

研究に関しては、本来の業務に追われて、十分な研究が行われているとはいえないものの、研究報告および学会報告は、ある程度の業績を提出していると自負している。以下に、研究報告および学会報告の内容を提示する。

<本庄キャンパス>

〔著書・総説〕

1. 佐藤 武：医師－患者－家族関係、医師－患者関係、精神心理学的面接、精神的ケア、治療的人間関係、適応、適応制御、同席療法、読書療法、頓挫療法、バリント方式、民間療法、無気力、NBM、ナラティブ・アプローチ。「医学書院 医学大辞典 第3版」、医学書院、東京（印刷中）
2. Takeshi Sato: Sleep. Health Management on Campus. Gifu Shinbun, Gifu, pp.29-36, 2017

〔研究・症例報告〕

1. Nakamura S, Sonezaki S, Hayashida Y, Sato T: The effect of pottery therapy on heart variability in college students with mental health problems. Journal of Mental Disorders and Treatment 3(2) 5 pages (DOI. 10.4172/2471-271X.1000151.

2. 布施泰子、三浦淳、平井伸英、苗村育郎、佐藤武：大学における休・退学、留年学生に関する調査第 37 報（平成 26 年度調査結果）．大学のメンタルヘルス 1 (1):28-36, 2017.
3. 丸谷 俊之、安宅 勝弘、齋藤 憲司、高山 潤也、佐藤 武、杉田 義郎、苗村 育郎：大学院における休学・退学・留年学生に関する調査－平成 26 年度調査結果を中心に－．大学のメンタルヘルス 1(1): 37-44, 2017
4. 中村志織、横山光代、佐藤 武：陶芸療法が自律神経機能へ及ぼす影響について．大学のメンタルヘルス 1(1): 63-66, 2017.
5. 佐藤 武、木道圭子：日本人大学生の留学中におけるメンタルヘルスについて - 佐賀大学における現状と対策 - ．CAMPUS HEALTH 54(2): 64-69, 2017.
6. 丸谷俊之、安宅勝弘、齋藤憲司、高山潤也、佐藤武、杉田義郎：大学院における休学・退学・留年学生に関する調査－第 14 報（平成 27 年度集計結果）－．CAMPUS HEALTH (in press)
7. 布施泰子、梶谷康介、平井伸英、苗村育郎、佐藤武：大学における休学・退学・留年学生に関する調査 第 38 報（平成 27 年度分集計結果）より．－死亡学生実態調査についての結果と考察－ CAMPUS HEALTH (under review)
8. 丸谷 俊之、安宅 勝弘、齋藤 憲司、高山 潤也、佐藤 武、杉田 義郎、苗村 育郎：大学院における休学・退学・留年学生に関する調査－平成 27 年度調査結果を中心に－．大学のメンタルヘルス (under review)
9. Yukuo Hayashida, Keiko Kidou, Nobuo Mishima, Keiko Kitagawa, Yong-son Oh, Jaesoo Yoo. Development of Evacuee Support Using Heart Rate Variability; International Journal of Contents Vol.13 No.2 Jun 2017

〔学会参加・報告〕

1. 佐藤 武：当番大学挨拶および議長．平成 29 年度一般社団法人国立大学保健管理施設協議会総会（当番大学：佐賀大学）、平成 29 年 12 月 1 日、沖縄。
2. 佐藤 武：第 55 回全国大学保健管理研究集会。総会・議長、平成 29 年 11 月 29 日、沖縄。
3. 佐藤 武：一般演題Ⅱ 座長．第 47 回九州地区大学保健管理研究協議会（九州大学 主催）、平成 29 年 8 月 23 日～25 日、福岡。
4. 尾崎岩太、安田 郁、古川早苗、武富弥栄子、小川康子、福島雅子、木道圭子、佐藤 武、市場正良：職業性ストレス調査からみた仕事の満足度に関与する因子の検討．第 47 回九州地区大学保健管理研究協議会報告書（九州大学 主催）、平成 29 年 8 月 23 日～25 日、福岡。
5. 丸谷 俊之、安宅 勝弘、齋藤 憲司、高山 潤也、佐藤 武、杉田 義郎：大学院における休学・退学・留年生に関する調査 第 14 報（平成 27 年度集計結果）．第 55 回

全国大学保健管理研究集会、平成 29 年 11 月 29 日～30 日、沖縄。

6. 布施泰子、梶谷康介、平井伸英、佐藤武、苗村育郎：大学における休学・退学・留年学生に関する調査 第 38 報（平成 27 年度分の集計結果から）。第 55 回全国大学保健管理研究集会、平成 29 年 11 月 29 日～30 日、沖縄。

<鍋島キャンパス>

[著書]

尾崎岩太, 水田敏彦: 3. 肝機能改善薬 d. 漢方薬 (竹原徹郎, 持田智 編): 肝疾患治療マニュアル. 第 1 版 p165-169. 南江堂 (東京) 2017.

[原著論文]

1. Nishida Y, Ide Y, Okada M, Otsuka T, Eguchi Y, Ozaki I, Tanaka K, Mizuta T. Effects of home-based exercise and branched-chain amino acids administration on the aerobic capacity and glycemic control in patients with cirrhosis. *Hepatol Res.* 2017 Mar;47(3):E193-E200

2. Otsuka T, Kawaguchi Y, Mizuta T, Ide Y, Koga F, Kumagai T, Yoshioka W, Murayama K, Rikitake O, Ikeda Y, and Ozaki I. Asunaprevir and daclatasvir in hemodialysis patients with chronic hepatitis C virus genotype 1b infection. *JGH Open* 2017, in press.

3. Kuwashiro T, Iwane S, Xia J1, Matsushashi S, Eguchi Y1, Anzai K, Fujimoto K, Mizuta T, Sakamoto N, Ikeda M, Kato N3, Ozaki I. Regulation of interferon signaling and HCV-RNA replication by extracellular matrix. *Int J Mol Med* 2017, in press.

【学会発表】

1. 尾崎岩太, Manirjjaman Md, 田中賢一, 小島基靖, 高橋宏和, 江口有一郎, 安西慶三, 松橋幸子. 分岐鎖アミノ酸(BCAA)による腫瘍抑制遺伝子 PDCD4 の発現調節. 第 53 回日本肝臓学会総会 2017.6.6-7 (広島) 肝臓 2017; 58(Suppl 1): A285.

2. 河口康典, 吉岡航, 野下祥太郎, 高橋宏和, 江口有一郎, 尾崎岩太, 岡田倫明, 柳田公彦, 小平俊一, 井手康史, 安武努, 川副広明, 水田俊彦. DAA 治療による HCV 排除後の肝発癌抑制効果および肝発癌危

3. 陰因子の検討. 第 53 回日本肝臓学会総会 2017.6.6-7 (広島) 肝臓 2017; 58(Suppl 1): A210.

4. 尾崎岩太, Guo Jing, Md Manirjjaman, 田中賢一, 夏京合, 桑代卓也, 高橋宏和, 江口有一郎, 安西慶三, 松橋幸子. 腫瘍抑制遺伝子 PDCD4 の発現抑制は培養肝癌細胞の老化を誘導する. 第 24 回肝細胞研究会 2017.6.30-7.1 (旭川) プログラム・抄録集 p64.

5. 尾崎岩太, 安田郁, 古川早苗, 武富弥栄子, 小川康子, 福島雅子, 木道圭子, 佐藤武, 市場正良. 職業性ストレス簡易調査から見た仕事の満足度に関与する因子の検討. 第 47 回九州地区大学保健管理研究協議会 2017.8.23-25(福岡)

6. Yasunori Kawaguchi, Wataru Yoshioka, Shotaro Noge, Hirokazu Takahashi, Iwata Ozaki, Michiaki Okada, Kimihiko Yanagita, Shun-ichi Kohira, Yasushi Ide, Tsutomu Yasutake, Hiroaki Kawasoe, Toshihiko Mizuta. Risk of hepatocarcinogenesis after eradication of hepatitis C virus by direct acting antivirals. DDW2017

7. Jing Guo¹, Iwata Ozaki, Jinghe Xia, Takuya Kuwashiro, Hirokazu Takahashi¹, Yuichiro Eguchi, Keizo Anzai, Sachiko Matsushashi. Loss of tumor suppressor PDCD4 induced cellular senescence in human hepatocellular carcinoma cells. AASLD2017

8. Manirujjaman Md, Ozaki I, Guo J, Xia J, Tanaka K, Takahashi H, Anzai K, Matsushashi S. Degradation of PDCD4, a tumor suppressor, is regulated by both proteasome and autophagy. 2017 年度生命科学系学会合同年次大会 2P-0438. 2017.12.6-9 (神戸)

9. 郭婧, 尾崎 岩太, 夏 京, Manirujjaman Md, 桑代 卓也, 小島 基靖, 高橋 宏和, 江口 有一郎, 安 西 慶三, 松橋 幸子. PDCD4 knockdown induces senescence in hepatoma cells by up-regulating p21 expression. 2017 年度生命科学系学会合同年次大会 2P-0449. 2017.12.6-9 (神戸)

10. 夏 京合, 尾崎 岩太, 郭婧, Manirujjaman Md, 田中 賢一, 桑代 卓也, 高橋 宏和, 江口 有一郎, 安 西 慶三, 松橋 幸子. ヒト肝癌細胞において BCAA による YAP 転写因子阻害における

11. PKC アイソフォームの役割. 2017 年度生命科学系学会合同年次大会 2P-0451. 2017.12.6-9 (神戸)

IV 国際交流及び社会連携・貢献に関する状況と自己評価

保健管理センターでは、地域の方々から、講演を依頼されることが多々ある。時間の許す範囲で、できるだけ、フィジカルおよびメンタルに関する社会連携・貢献を果たしている。

その内容は以下に列記する。

＜本庄キャンパス＞

〔新聞執筆〕

1. 佐藤 武：診察室から「あまりに違う日欧仕事観 健康で文化的生き方を」佐賀新聞：平成 29 年 2 月 25 日号
2. 佐藤 武：診察室から「マスクの意外な使われ方 視線遮り、不安を軽く」佐賀新聞：平成 29 年 4 月 1 日号
3. 佐藤 武：診察室から「筋肉量とがんの予後 歩くことが最大の備え」佐賀新聞：平成 29 年 5 月 6 日号
4. 佐藤 武：診察室から「学校の男子トイレ個室化 人との接し方変化を映す」佐賀新聞：平成 29 年 6 月 10 日号
5. 佐藤 武：診察室から「DVや児童虐待の加害者 自分の行い省みる機会を」佐賀新聞：平成 29 年 7 月 8 日号
6. 佐藤 武：診察室から「こころの病気」予防へ 単純に考え生きましょう」佐賀新聞：平成 29 年 8 月 12 日号
7. 佐藤 武：診察室から「がん検診の新技术 血液や尿で早期発見へ」佐賀新聞：平成 29 年 9 月 16 日号
8. 佐藤 武：診察室から「産診察室に新コーナー」佐賀新聞：平成 29 年 10 月 20 日号
9. 佐藤 武：診察室から「自己管理の重要性再認識を ストレスため込んだ代償 50 歳過ぎに」佐賀新聞：平成 29 年 10 月 22 日号

〔新聞掲載〕

1. 佐藤 武：大学の学生支援 4 心の不調 予防・回復策 読売新聞：平成 29 年 5 月 31 日
2. 佐藤 武：心の悩みを抱える学生を専門医が手厚くサポート 朝日新聞：平成 29 年度（広告特集号）
3. 佐藤 武：犯罪被害者相談「思いの丈話して」佐賀で支援講演会 毎日新聞：平成 29 年 7 月 3 日

〔講演〕

佐藤 武：心電図の読み方—マラソン中の事故。佐賀大学マラソンクラブ、佐賀県営運動場、平成 29 年 4 月 14 日

1. 佐藤 武：農学部新入生の「メンタルヘルス」 佐賀大学農学部、佐賀大学、平成 29 年

4月24日、佐賀。

2. 佐藤 武：メンタルヘルス。佐賀県警察学校、平成29年4月25日
3. 佐藤 武：メンタルヘルス。佐賀大学新採用職員研修、平成29年5月10日、佐賀。
4. 佐藤 武：教職員のメンタルヘルスケア―主幹教諭として気を付けたいこと―。佐賀県教育委員会新任主幹教諭研修会、平成29年6月6日、佐賀。
5. 佐藤 武：留学生を取り巻く医療環境の現状について。医療通訳サポータースキルアップ講座（第2回）、佐賀県国際交流会館、平成29年6月7日、佐賀。
6. 佐藤 武：メンタルヘルス。理工学部フレッシュマンセミナー。佐賀大学、平成29年6月14日、佐賀。
7. 佐藤 武：犯罪被害者等への支援について。被害者支援ネットワーク佐賀 VOISS、アバンセ、平成29年7月2日、佐賀。
8. 佐藤 武：中高年のメンタルヘルス。いのちの電話、平成29年7月5日、佐賀。
9. 佐藤 武：教職員のメンタルヘルス。平成29年度 健康・メンタルヘルス出前講座（唐津西高等学校）、平成29年7月20日、佐賀。
10. 佐藤 武：職場におけるメンタルヘルス うつ病にならないために、佐賀大学附属特別支援学校講演会、平成29年8月21日、佐賀。
11. 佐藤 武：うつ病の病理の理解と予防法 人類の進化とうつ病。佐賀県立中原特別支援学校講演、平成29年8月22日、佐賀。
12. 佐藤 武：人類の進化とうつ病、放送大学佐賀学習センター・オープンキャンパス、アバンセ、平成29年8月26日、佐賀。
13. 佐藤 武：うつ病について。いのちの電話講習会、アバンセ、平成29年10月4日、佐賀。
14. 佐藤 武：職場におけるメンタルヘルス。佐賀県警本部 佐賀南警察署研修、平成29年9月19日、佐賀。
15. 佐藤 武：メンタルヘルス「うつ」に対する説明と対処法。佐賀県警「ライフサイクルセミナー50」、佐賀県警、平成29年10月18日、佐賀。
16. 佐藤 武：人類の進化とうつ病。循誘公民館講座、佐賀大学、平成29年10月20日、佐賀。
17. 佐藤 武：高齢者のための心のセルフケア。若楠公民館・講習会、若楠公民館、平成29年10月23日、佐賀。
18. 佐藤 武：アマランサスの栄養成分とその効用。平成29年度佐賀県医師会「歩こう会」、平成29年11月12日。
19. 佐藤 武：ひきこもりの現状とこれからの未来を見つめて、福岡県ひきこもりを抱える親の会、平成29年12月2日、福岡県赤間市。
21. 木道 圭子：健康講話「心と身体健康管理」 平成29年7月4日 なゆたの森病院

〔国際貢献〕

平成 30 年 1 月 10 日 元培医事科技大学（台湾、新竹市）の大学生および大学院生（約 20 名）、副理事長（黄博士）、自閉症スペクトラム障害の学生および家族が、副学長への訪問後、保健管理センターで約 1 時間交流を行った。最初の 30 分に、佐賀大学の歴史と現状を中国語で解説した（佐藤）。その後、同時通訳ができる大学院生とともに、日本の大学における自閉症スペクトラム障害への対応を説明し、4 か国（台湾、中国、オーストラリア、日本）が共同して、自閉症スペクトラム障害の国際共同研究を行うこととなった。

＜鍋島キャンパス＞

〔講演〕

1. 佐賀県の C 型肝炎治療の現状-DAA 治療のインパクト- 鳥栖三養基医師会学術講演会 ホテルビアントス(鳥栖市) 2017. 3. 21.
2. 抗ウイルス薬の歴史と進歩: HIV と肝炎. 治る時代がすぐそこに! 第 3 回エイズ文化フォーラム in 佐賀 アバンセ (佐賀市) 2017. 6. 17-18.
3. インターフェロンフリー経口薬による C 型肝炎治療: 薬剤の特徴とガイドラインによる治療指針. 佐賀県インターフェロンフリー治療に係る診断書作成医講習会 佐賀県庁 (佐賀市) 2017. 8. 10.
4. 肝臓病と糖尿病: ならないようにするためには? 平成 29 年度 学ばん場 健康サポート講座(1) 富士公民館 (佐賀市) 2017. 12. 22

V. 組織運営・施設・その他部局の重要な取組に関する状況と自己評価

佐賀大学における学内の各種委員会に積極的に参加し、学内の学生および教職員の問題点に保健管理センターとして、意見を述べている。さらに、全国および九州地区の保健管理センターの役職、佐賀県の役員などをこなし、社会貢献を行っている。

以下のその役職を提示する。

本庄キャンパス（佐藤）

〔学内〕

保健管理センター運営委員会（委員長）・本庄地区労働安全衛生委員会（委員長、産業医）・統括安全衛生管理委員・学生モニター会議委員・入試委員会・学生委員会（オブザーバー）・大学教育委員会（オブザーバー）・教育室会議委員・医学部研究科委員会・本庄地区産業医・附属中学校保健委員・附属特別支援学校保健委員・施設協議会委員、学生支援室・健康支援部門（部門長）、附属園・小学校保健委員。

〔学外〕

国立大学保健管理施設協議会理事・全国大学保健管理協会理事・日本精神衛生学会理事・全国大学メンタルヘルス学会理事・九州地区大学メンタルヘルス研究協議会運営委員・日本総合病院精神医学会評議員・日本サイコオンコロジー学会世話人・九州地区大学保健管理研究協議会評議員（代表世話人）・九州精神神経学会評議員・佐賀県自殺対策協議会委員、佐賀県いじめ問題対策委員会委員、佐賀県 VOISS 理事長、など。

〔査読委員〕

「INFORMATION An International Interdisciplinary Journal」

「Asian-Information-Science-Life」

「精神神経学雑誌」「日本ペインクリニック学会誌」

「九州神経精神医学」

「CAMPUS HEALTH」

「こころの健康」

「Plos One」

「大学メンタルヘルス」（編集顧問）など。

本庄キャンパス（木道）：

〔学内〕

保健管理センター運営委員会（委員）、本庄地区労働安全衛生委員会（委員、産業医）、本庄地区産業医、佐賀大学ハラスメント相談員、学生支援室・集中支援部門（副部門長）

鍋島キャンパス（尾崎）

〔学内〕

佐賀大学安全衛生管理委員会・佐賀大学医学部安全衛生委員会・佐賀大学医学部教育委員会（オブザーバー）・佐賀大学動物実験委員会・佐賀大学医学部及び附属病院エコアクション21 委員会・佐賀大学医学部附属病院社会保険委員会・佐賀大学医学部附属病院感制御部会議・佐賀大学ハラスメント相談員・佐賀大学鍋島事業場産業医

〔学外〕

佐賀県肝疾患対策委員会（委員長）

佐賀県肝炎治療助成費認定協議会

佐賀県国民健康保険診療報酬審査委員会

この領域においても、各種委員会に可能な限り出席しており、十分な役割を果たしている

いえる。

佐賀大学保健管理センター外部評価 評価調査票
(平成29年度実績に対する評価)

委員名：向井 常博

項番	評価項目	評価	評価についてのコメント
1	学生支援の領域	☒ 十分良い ☐ おおむね良い ☐ やや悪い ☐ 不十分	28年度と比べて事業に特段変化はない。定期健康診断はじめ、検査所見のデータ整理、ならびにそのフォロー、特にメンタル対策、感染症対策など多岐にわたる健康管理業務を効率よく進めている。受診率も高く維持されており、特にメンタルヘルス対策はきめ細かく対応している。検診結果で、やせのフォローもお願いしたい。やせの問題は低出生体重児出産のリスクが高いと厚労省も指摘している(健康日本21(二次))。
2	教職員支援の領域	☒ 十分良い ☐ おおむね良い ☐ やや悪い ☐ 不十分	28年度と比べて事業に特段変化はない。定期健康診断受診率がほぼ100%に近く、またメンタルヘルスに関しては復職支援も含めてきめ細かく対応されている。鍋島地区は、ワクチン接種など感染症対策はしっかり行われている。しかしながら、両地区とも精密検査の受診率は必ずしも十分ではない。禁煙に関しては、平成31年4月より全面禁煙が導入されるとのこと。導入後のフォローに万全を期して欲しい。
3	教育の領域	☒ 十分良い ☐ おおむね良い ☐ やや悪い ☐ 不十分	28年度に比べて事業に特段変化はない。センターの教員は、健康についての講義科目を受け持っている。大学院生は本庄で3名、鍋島で4名受けいれており、その指導には多大な労力を要すると思われる。なお、教職員支援の領域でも述べたが、健診の受診率が高いがその後の精密検査の受診率が低い。教育講演を通して健康に関する意識を高め改善に結びつけて欲しい。

4	研究の領域	☐ 十分良い ☒ おおむね良い ☐ やや悪い ☐ 不十分	28年度に比べて事業に特段変化はない。著書、研究論文並びに学会参加・発表などそれなりに業績を出しておられると判断する。健康に関する論文、あるいは個人の専門領域の研究などバランスが取れている。できれば科学研究費補助金の取得につながるよう研究を深めて欲しい。
5	国際交流・社会貢献の領域	☐ 十分良い ☒ おおむね良い ☐ やや悪い ☐ 不十分	新聞執筆、新聞掲載記事、学内外での専門の立場からの講演などを通しての一般市民への啓蒙活動を行なっている。4カ国共同(台湾、中国、オーストラリア、日本)の自閉症スペクトラム障害の国際共同研究の取り組みは大いに期待したい。佐賀大学は多くの交流協定校を有するのでそれを利用して健康面で貢献するの一方策である。
6	組織運営の領域	☐ 十分良い ☒ おおむね良い ☐ やや悪い ☐ 不十分	28年度に比べて事業に特段変化はない。結果的には学生並びに教職員の受診率も高く、そのフォローも行った健康管理データが得られている。それには学内の関係各課との連携協力がうまくいき、円滑な運営が行われたものと推測している。実際連携協力が取れていることは会議の場で判明した。 組織運営を評価するための資料を揃える必要がある(方針、体制、業務の企画立案、諸委員会での課題とその対策等々)。

7	施設の領域	☒ 十分良い ☐ おおむね良い ☐ やや悪い ☐ 不十分	平成28年度同様、危機管理としての消防用施設の点検、並びに医療廃棄物の処理は適切に行われている。健康管理センター職員としての研修にも十分参加しておられる。 数年ぶりに健康管理センター本部を訪れたが、センターの改修工事が行われており、入口からバリアフリーの設備が十分に行き渡っている。目新しい部屋としてリラクゼーションルームがあり、陶芸教室などが行われており時宜を得ている。 評価のための資料を準備する必要がある。
---	-------	--	---